

榛東村社会教育委員会議からの 提言に対する回答（報告）

提言書

楽しく学びつながる生涯学習

～公民館事業をとおして～

令和5年3月提出

榛東村教育委員会事務局

生涯学習課

令和6年10月

1 はじめに

「生涯学習」とは、私たちが生きがいのある充実した生活を送るために、自分が学びたいことを、自分に合わせた手段や方法を自ら選んで、「いつでも、どこでも、なんでも」自由に、楽しく、生涯にわたって学んでいくことである。また、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会」をめざそうという考え方を表している。以上のように「生涯学習」とは間口が広く、どこから切り込んでいくのか的が絞りにくい面がある。そこで、今回は主に榛東村中央公民館及び榛東村南部コミュニティセンター（以下「公民館等」という。）で行われる「公民館事業」を中心に調査・研究を行った。

榛東村は榛名山麓に位置し、豊かな自然や、歴史と文化・伝統に恵まれている。そのような地域環境の中で、年齢に関係なく、大人と子どもが共に学び、語り、活動できる地域づくりを行うことは、たいへん意義のあることだと考える。

今回の提言により、公民館等を中心として様々な地域やそこに住む人々が交流し、異なる文化や社会、価値観を理解・尊重し、共に協力して何かを成し遂げる場や機会を得ることができることを望む。

2 公民館等の現状と課題

公民館事業等について提言するにあたり、公民館等の現状と課題を把握し、それに対してどのような取組を行うべきか考える必要がある。

公民館等については、中央公民館が昭和48年に、南部コミュニティセンターが平成4年に設立され、特に中央公民館については施設の老朽化が激しく、駐車場も狭いといった課題がある。また、両施設ともに2階への移動手段が階段のみのため、ベビーカーや車いすを利用する方、高齢者にとって不便な状況にある。

その他、以下のような現状と課題がある。

※上記の他、次ページの3項目について課題を提起していただいた。

【以降、回答（検討事項等）を青字で表記しています。】

- ・老朽化の著しい中央公民館に代わる新しい公民館を新井地内に建設中（令和7年度中に開館予定）であります。

※1階建て、駐車場（約150台）を整備する計画。

・南部コミセンにエレベーター等を設置する計画はありませんが、1階談話室をリニューアルして読書スペースを設ける予定。また、今年度中に図書蔵書システムを導入して談話室（1階）で図書等の貸し出しや返却が行えるように整備して館利用者の利便性の向上を図っていきます。

(1) 知名度について

きっかけや行きたいと思う教室等が少なく、用事がないと行かないといった、①「誰でも、いつでも行っているという開放感」があまりない。併せて、②受講できる講座やボランティア講師の案内が少ない。また、③開館状況がホームページ等で公開されておらず、電話で問い合わせるか実際に行かないと分からないという課題がある。

①施設の開放感

新公民館のテーマは「集いと賑わいの拠点」としています。

大空間となるギャラリーホールの奥には、飲食スペースやテラスを設け、住民の皆さんが気軽に立ち寄り利用していただけるような施設を目指していきます。

②案内不足 ③情報発信不足

村ホームページや施設での案内に加え、10月1日から開始された村公式LINEなども活用して住民への情報提供に努めていきます。

(2) 活用方法について

それぞれの団体での活動が多く、①他の市町村との交流が少ないイメージがある。また、②親子や友人で行った際に、休憩できる場所がない。さらに、③不登校の児童生徒の居場所（適応指導教室）が、現在は榛東村役場庁舎内に設置されており、送迎も含め通うのに苦勞するといった状況にある（公民館等にあった方が通いやすいと思う）。

①他市町村との交流不足

各団体の意見を聞きながら他市町村との交流について、調査・研究を進めていきます。

②休憩スペース

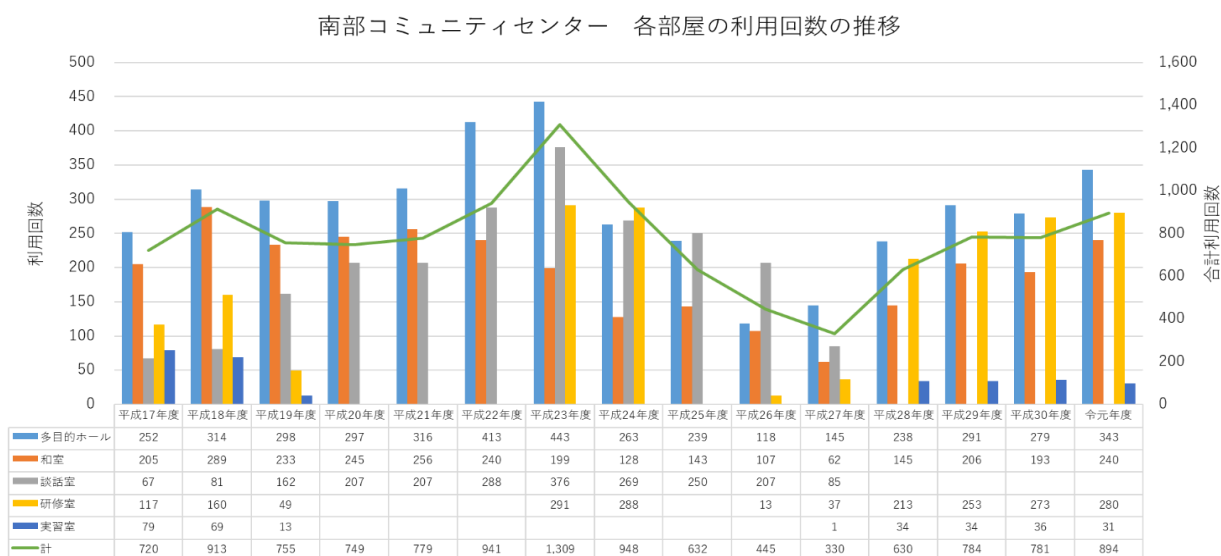
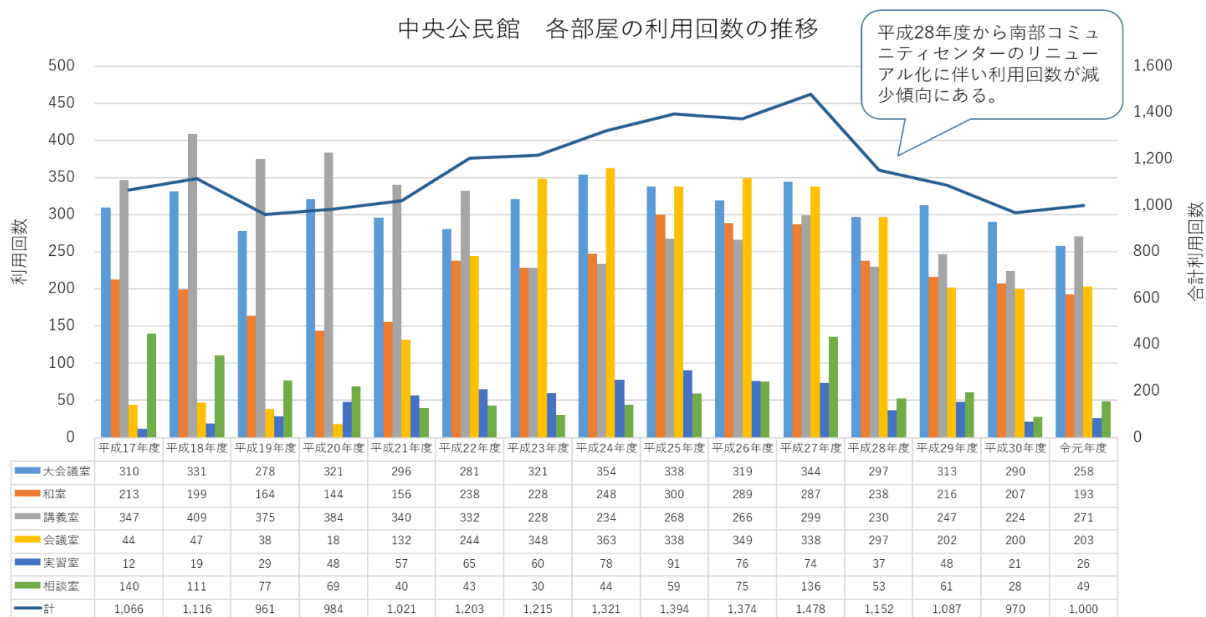
新公民館の飲食スペースやテラス、ギャラリーホール。
南部コミセンの談話室など気軽に休憩できる場所としていきます。

③不登校児童生徒の居場所

要検討（※生涯学習課長が回答する立場（権限）にない。）

(3) 公民館等の利用状況について

平成17年度から令和元年度の15年間における公民館等の利用状況については、次のとおりである。



南部コミュニティセンターについては、平成26年度及び平成27年度の施設改修工事により利用回数が減少したものの、徐々に増加傾向にある。

一方、中央公民館については、平成27年度にかけて利用回数が増加傾向にあったものの、南部コミュニティセンター改修もあり、以降減少傾向にある。

以上のことを踏まえ、具体的な施策について検討を行った。

中央公民館・南部コミセン等、施設の利用状況について

今後も、両施設及び新公民館の利用状況等を注視しながら、施設の維持管理をはじめ、施設の運用、各種事業の計画などを実施していきます。

提言Ⅰ 地域住民の生涯学習の拠点づくり

社会教育施設においては、誰でも自由に学習機会を選択して学ぶことができること、またその学習や事業に関する情報が常に公開され、地域住民に周知されることが大切である。

また、公民館事業で学んだことや、自ら学ぶための学習機会の提供となるだけでなく、そこで学んだことや既に持っている知識や技術などを地域社会の中に還元していくというシステムづくりが望まれる。

そこで、本村の公民館等が、誰もが「いつでも」「どこでも」「なんでも」学ぶことができる生涯学習の拠点となることを望み、以下のとおり提言する。

(1) 情報発信について

①参加できる教室やイベント等を掲示板やモニターに随時掲載し、周知を図る。

①新公民館では、ロビーにモニターを備えた掲示板を設置して周知を図る。その他、村ホームページや村公式LINEを活用して周知していきます。

②ICT※を活用した情報発信を行う。

②ICTを活用した情報発信を積極的に行っていきます。

③地域の名産品を展示、紹介する場を設ける。

③未定(※現在は、役場1階、エレベーターホール横の展示ケースで紹介)

(2) 学習環境の整備について

①学生が自主学習できる環境を整備する。

①新公民館内に「学習室」を整備する計画であります。

併せて、南部コミセンの談話室や図書室内の環境を整えていきます。

②不登校の児童生徒の居場所(適応指導教室等)を設ける。

②要検討(※生涯学習課長が回答する立場(権限)にない。)

③ICT※を活用した学習活動ができる環境を整備する。

③新公民館、南部コミセンではwifiを整備する予定です。

ICTを活用した学習活動(環境整備)について検討していきます。

④工作等、ものづくりができる環境を整備する。

④新公民館内に「創作室」を整備する計画であります。

⑤図書室等での視聴覚教材の貸出しが行えるようにする。

⑤新公民館と南部コミセンで連携を図り、収蔵図書や視聴覚教材の貸出し等が行えるようなシステム構築の検討を進めます。

(3) 学習成果の活用機会等について

- ①文化協会等の団体と連携した教室を開催する。
- ①各種種団体等と連携した教室や講座の開催を検討していきます。
- ②展示スペースの設置等、学習成果を発表する場を設ける。
- ②ギャラリーホール等を活用し学習成果を発表する場所を設けます。

提言 2 地域住民の交流の場づくり

榛東村の将来像に「子どもに夢を みんなに福祉と安心を」とある。子どもが健やかに育ち、誰もが安心して暮らせる村にするためには、地域の力が不可欠である。しかし、その地域の力も核家族化、個人主義等で低下している。

そこで、本村の公民館等が、子どもから大人までの居場所となり、学校・家庭・地域が連携・協働する拠点となることを望み、以下のとおり提言する。

(1) 住民交流について

- ①地域住民が気軽に立ち寄れる場を設ける。
- ②村の内外を問わず、様々な人々が交流できる場を設ける。
- ③社会教育委員と各種団体が交流できる場を設ける。

①②③気軽に立ち寄れる場所、交流場所の整備

新公民館・南部コミセンともに、人々が集い、活発に交流を図り、賑わいのある施設となるよう工夫（環境整備）をしてきます。

(2) 学校・家庭・地域の連携・協働について

- ①子育て中の方々が交流しやすいよう、未就学児等が安心して遊べる場を設ける。

①新公民館内に、主に未就学児から児童まで、またその親たちの交流場所となるように「プレイルーム」を整備する計画であります。

- ②地域住民が地域の子どもたちと交流できる場（放課後子ども教室等）を設ける。

②現在実施している「放課後わくわく教室」等を継続して実施していきます。

- ③地域住民を講師とした教室を開催する。

③ボランティア講師（人材バンク）を活用した教室の開催を検討します。

提言３ 安心、安全に誰でも利用できる施設整備

社会教育施設においては、年齢や障がいの有無に関わらず、誰でも支障なく利用できるよう配慮することが必要である。

また、地域コミュニティの拠点、災害時の地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことを踏まえた施設整備が必要である。

誰でも気軽に立ち寄ることができ、安心、安全に利用することができる施設となることを望み、以下のとおり提言する。

(１) バリアフリーの視点からの整備について

段差の解消や点字ブロックといったバリアフリーを考慮した設備の設置を進める。

たくさんの人達が集まり利用する施設、また、災害発生時には村の防災の中心となる施設として、バリアフリー化等に考慮した施設・設備の設置を進めます。

(２) 防災施設としての整備について

①災害時に避難所となることを想定し、必要な設備や防災用品等の必要な物資を整備する。

①榛東村地域防災計画に基づき整備します。※総務課担当

②災害時に備え、地域住民向けの防災教育を実施する。

②新公民館を活用して防災教育を実施していきます。

③給食センターと協力し、食育や炊出し訓練を実施する。

③新公民館では、複合施設の利点を活かし、給食センターと連携した取組（食育や応急給食等）を実施していきます。

④陸上自衛隊第１２旅団や渋川広域消防本部等との防災訓練を公民館等でも実施する。

④災害発生時に、新公民館が村の防災中枢を担う施設であることを認識して防災訓練等を実施していきます。

4 おわりに

私たち榛東村社会教育委員は、平成31（令和元）年度に「公民館事業」をテーマに調査・研究を始めました。当初は、令和2年度中の提言に向けて活動を進めてきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ほとんど活動ができませんでした。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、中部地区社会教育研究集会及び群馬県社会教育研究大会での事例発表に向けて資料作成に取り組み、「家庭教育支援リーフレットの作成について」をテーマに事例発表を行いました。そして、令和4年度になり感染症対策に留意しながら提言書の作成を再開しました。

まず、平成31（令和元）年度に調査・研究を行い、令和4年度に再度公民館事業等の課題や解決策等について、社会教育委員一人ひとりによる調査・研究を行いました。

そして、社会教育委員一人ひとりのアイデアをKJ法を通して洗い出し、提言案を検討し、話し合いの結果をこのような形でまとめました。

今回の提言をご理解いただくとともに、教育委員会としても積極的に取り組まれるよう要望いたします。

今後とも社会教育委員の活動に対しまして、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに

提出していただいた提言書を拝読し、公民館のあり方や生涯学習事業につきまして、改めて振り返り・検討を行う良い機会（資料）となりました。

現在建設中の防災中枢機能施設（新公民館・給食センター）の施設・設備の整備におきましても、社会教育委員の皆さまから提起していただいていた内容（要望）が随所に渡って盛り込まれていることも確認でき、地域住民の声が新施設の建設計画に反映されているとの実感を得ることができました。

今後も、新施設をはじめ南部コミュニティーセンターの有効活用を図るとともに、村の生涯学習事業・各種団体活動の活性化に所属職員一丸となって取り組んでいかなければと考えておりますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

生涯学習課長